

授業改善等に関する報告書（2022年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

【2022（後期）現代生活学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Webテクノロジー演習	河井 延晃	<p>Webテクノロジー演習は、指定テキストの内容を踏まえた制作課題と発表を目的とした授業でした。本授業は比較的年度ごとの変化がそれほどない科目で、授業評価も比較的安定していましたが、今年は4を切っているためやや低かったと言えます。</p> <p>この点は詳細に分析と検討すべき点かと考えます。 例年と比較して、今年は欠席者の割合が比較的高く、特に序盤から中盤にかけてのWEBコーディングのやり方の一連の流れを実際に体験していない場合、なかなか授業についてくる事は難しかったかもしれません。またSAも授業に居ないため、情報リテラシーなどの授業のような教員以外の授業中ヘルプもありません。</p> <p>改善はこれらの状況にどのように対応するかと言うことになると考えます。まず欠席をしないことは大前提ですが、欠席した学生に対するフォローアップを授業時間外にオンライン文書で示しておくなどして、相互に授業を作り上げていく協力体制が必要と考えます。特に今年は学生の成績がやや二極化していたこともこのことと無関係では無いかもしれません。</p>
グローバル社会	倉持 一	<p>授業に対する評価は基本的には高いと受け止めている。グローバル社会の切り口は様々だが、企業経営と社会課題を中心に取り上げたことで、履修者にとってあまり気づきのなかった「グローバル社会」の姿が見えたのではないかと。</p>
コミュニティ概論	須賀 由紀子	<p>まちづくりとコミュニティについて、興味を持っていただけたようで良かったです。いろいろな取り組みが各地で行われています。今後もニュースなどに耳を傾けていただけるとよいと思います。</p>
ゼミナール	河井 延晃	<p>ゼミナールは三年次の配当科目になります。 まず私の科目に限りませんが、ゼミのアンケートの回収率が極端に低い事例が散見されます。</p> <p>本年度はアンケートの告知を指示した週は時間があまりなかったため、翌週にもう一度時間を取ったつもりですが、過去最低の回収率になりました。 このこと自体検討されるべきかもしれません。</p> <p>一方で、アンケート結果を踏まえる場合、年次の計画をさらに明示的かつ十分な時間を持って提示しておくことで「授業の進捗が早い」と言うご意見にある程度対応できるかと考えます。そして欠席時のフォローアップなども行うことで改善されると考えます。</p> <p>なお、この授業に対する担当教員の所感（今年の特徴）としては、出席率が総じて悪く、学生ペアでのグループワークに大きな悪影響を与えていたように思います。これについては多くのゼミ生の方が賛同されることと思います。欠席についてはいろいろな事情があると思いますので、私からはあまり強く申し上げることはできませんが、ゼミやグループワークは、学生の協力や信頼のもとに成立するものではないでしょうか。</p>
ゼミナール	犬塚 潤一郎	<p>時代と社会においては、仕事の構造が学術的方法に準拠する、という傾向が強化されていますので、しっかり研究のメソッドを身につけましょう。</p>
ゼミナール	行実 洋一	<p>本人の向上感に乏しい学生が見られたので、その点を留意して内容の向上を目指したいと思います。</p>
ゼミナール	須賀 由紀子	<p>地域の中に出て、実践的に学んでいくゼミの良さを、さらに続けていきましょう。</p>
ゼミナール	倉持 一	<p>授業の狙いは達成できたものと考えている。次年度はファイナルプロジェクトとして、卒論の作成に向けた理論的、実践的な学びの展開を図っていく計画である。</p>
ビジネスプランニング	倉持 一 上野 亮	<p>説明や配布資料等の分かりやすさ、授業の満足度等、総合的に見ても、十分な評価を得られたと認識しております。</p> <p>授業では、最初にグループワークの基礎を学び、その後、経営学の観点からビジネスプランニングの方法を学ぶ。最後にこれまでの学修成果を活かし、実際に企業が提示するビジネス課題の解決に挑戦し、課題提示企業からのフィードバックを受けるという内容でした。本授業は1年生の必修授業ということもあり、PBL形式の授業を体験し、社会で活躍する方々からフィードバックを受ける(学外の方に提案し、その評価を受ける)という点を重視した授業としました。成長を実感したことや授業を受けてよかったことには、グループワークをする力が身についた、フィードバックをもらえたことが良かった、良い機会になったという回答もあり、こうした狙いは達成できたのかなと思います。</p> <p>今回の授業で学修してきた内容は、社会に出てからも必要とされるスキルです。ここで学修してきた内容は、ぜひ、今後も活かしてもらえればと考えております。</p>

【2022（後期）現代生活学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
フィールドリサーチ c	上野 亮	今年度、初めて担当した授業ですが、説明や配布資料等の分かりやすさ、授業全体の満足度については、十分な評価を得たと認識しております。 本授業では地域コンテンツを作成するに当たり、グループワークとして、現地調査や取材を実施してもらいました。今回作成したのは、比較的簡単に作成できるブログ記事でしたが、それでも、事前の下調べや取材先との交渉等を経て、内容に気を付けながら、広く公開されるコンテンツを作ることに大変さを実感してもらえたと思います。成長を実感したことの記述に「計画的に物事を進める力が身についた」「計画を立案し、お互いに協力して進める協働力を身に着けることができた」といった回答がありました。本授業で実施した、グループワークや計画立案、関係者との交渉といったことは、将来、様々な場面で求められます。今後も本授業で学修してきたことを活かしていただければと思います。
プロジェクト基礎演習 b	須賀 由紀子 合原 勝之	表現することの基礎について、楽しく学んでいただけたと思います。マイブランド大切にしてください。
プロジェクト基礎演習 c	須賀 由紀子	市役所の方からいただいたリアルな課題に対しての解決策を考える授業で、充実して取り組むことができた様子でよかったです。皆さんの粘り強い取り組みも素晴らしいと思います。これからも、実践的な学びを続けていきましょう。
プロジェクト基礎演習 d	行実 洋一	高い満足度を得られているので、引き続きより一層の授業内容の向上を目指したいと思います。
プロジェクト実践演習 b	須賀 由紀子 合原 勝之	表現について実践的に学ぶことができたと思います。自分の表現に自信を持って、これからも積極的に自分を発信してほしいと思います。
メディアアート論 a	犬塚 潤一郎	研究による”世界”把握の知的な楽しみを求め経験する科目です。楽しまれた方が多く、今後のご自身の展開を姿勢の上で後押しする機会になればと思います。
メディアコミュニケーション b	河井 延晃	メディアコミュニケーション b は「Webマーケティング検定」に準拠したテキストを踏まえておこないました。 評価平均は4を超えており、極端に悪い評価ではありませんが、改善点について考えてみたいと思います。むしろ個人的には今後の改善点をいろいろ考えながら進めていた授業になります。 授業でも少し触れた事ですが、この公式テキストは3年を経過しており、昨今のAIやWeb3などの、動向がフォローできていません。そのため、授業の後半で補足資料などを追加しながら説明しましたが、テキスト以外の資料が多くなったこともあり、ややわかりにくいところも多かったのではないかと思います。 次年度にはテキストが改定されることを期待しつつも、もう少し新しいウェブマーケティングの動向について体系的に執筆した資料を、私自身作成して配布したいと考えております。
メディアプロデュース論	行実 洋一	全体的に高い満足度を得ることができたので、今後もこの方向性で授業内容の向上を図りたいと思います。
メディア経営論演習	犬塚 潤一郎	少人数授業のため、丁寧に進められたと思います。プログラミングすることで、AIを具体的に理解することができたと思います。この上で、人類未経験といえるこれからの社会構想を課題としてください。
家庭経営論	高橋 桂子	「より理解を深めるためにこれからも勉強を続けていきたい」、この言葉は教員に対しての何よりのご褒美です。この言葉を聞きたいがために熱を入れて教壇に立っています！ キャンパスでお会いすることもあるでしょう。皆さんたちならもっともっと成長できるよ。高橋
環境マーケティング論演習 b	倉持 一	基本的には全体的に高い評価を得たと受け止めている。プレゼン資料の作成時間を十分に取れなかったことは、反省材料とし、次年度は履修者の数を勘案しながら、もう少し作業時間を確保するように改善したい。
環境思想演習	犬塚 潤一郎	少人数のため、各自の理解に沿って進めることができたと思います。とはいえ、テキストの内容は奥深く、自身の成長に沿って新たな意味が拓かれてくるものですから、ご自身の成長に合わせて、再読の機会を持たれることをお勧めします。
企業研究 a	倉持 一	この授業は必修のため、必ずしも企業経営に高い関心や興味がない履修者も少なからずいたと考えられる。そうした中で、基本的には高い評価を得られたことは、授業の目的や狙いは高いレベルで達成できたものと受け止めている。

【2022（後期）現代生活学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
基礎メディア技術	河井 延晃	<p>基礎メディア技術はITパスポート資格とも連動した科目でした。まず、今年は昨年の評価と比較した場合やや低い結果となりました。これについて一部消化不良となった部分もあると考えます。</p> <p>特にテキストもそれに準じた内容で、年々テキストボリュームが増えていることありますが、今年度は旧版と新版の端境期で両方の内容を扱いました。この点について、旧版の内容を短く切り上げるなどの配慮が可能だったと思われる。</p> <p>また、テクノロジー、マネジメント、ストラテジーの内容に分かれますが特に予習と復習が求められる部分があります。アンケートの結果から予習時間が平均よりも低いことから、もう少し課題などを出すことで、知識の定着や改善を行うことができると考えます。</p>
現代社会を読み解くc（文化と市場）	河井 延晃	<p>現代社会を読み解くc（文化と市場）は、二年度以降の配当科目となります。</p> <p>「この授業の内容と方法について」の項目全体の平均値は4を超えますが、「説明のわかりやすさ」4を切り、最低の3.59となります。</p> <p>この授業は、まず最初に文化概念と市場概念をおさえた上で、著作権や創造性についての現代的な問題や課題についての資料を読み、皆さんからオンラインでのコメントを集めて、共有するスタイルで進めていきました。</p> <p>扱う内容を少し減らして、シンプルにするなどして、極力複雑にならないような授業運営を行うことで、上記の項目についても改善や向上が期待できると考えます。またテキストそのものも、やや年月が経過しつつあるので、新しいテキストについても検討すべき時期に来ていると考えています。</p>
現代社会を読み解くd（科学技術と社会）	犬塚 潤一郎	<p>担当変更により、シラバスよりも対象領域を広げました。科学技術は現代の社会の一面ではなく、総体を形成する基礎原理ともなっています。どの領域にせよ社会の改善には、技術環境ともいえる現代の生活の構造的な認識が求められると考えます。視点をそのように保たれますよう。</p>
現代生活学	犬塚 潤一郎	<p>現代の文化・社会・生活の複合的な構造について、理解が深まったことは成果だと思います。考える内容を論理的に構造化し、表現する練習も進みました。いよいよ専門研究に進みます。得たこの基礎力を生かしてください。</p>
広告とメディア	行実 洋一	<p>双方向性や、学生個人の向上感にやや不足が見られるので、その点を留意して授業改善に取り組みたいと思います。</p>
社会責任論	倉持 一	<p>この授業は、企業経営に関するかなりハイレベルな内容を取り扱っている。単なる営利を追求する組織から、社会の一員として責任を積極的に果たしていく組織へと歴史的に変遷してきた様子を理論的に学習することは、経営学を専門としない本学科の学生にとってハードルは高かったと考えられる。しかし、授業満足度や成長実感は高い評価を得ているので、基本的にはこのスタイルで今後も授業を展開していきたい。</p>
女性社会論b	須賀 由紀子 倉持 一	<p>自分を大切に、そして女性ならではの良さを生かして、新しい社会で活躍してほしいと思っています。</p>
生活産業史	倉持 一	<p>評価を見ると、成長実感や満足度が高いことから、基本的には授業の狙いは達成できたと受け止めている。私達の生活に身近な産業の伝統的な課題と新たな課題を、実務者のゲストスピーカーを交えながら学ぶことで、現代生活学科らしい学びができたのではないかと考えている。</p>
地域エネルギー論	犬塚 潤一郎	<p>地域の問題特に、世界の状況は、密接に関連しているとしても次元が違い、結び付けて考えるためにはそのための理念的な枠組み・手法が必要となります。単に知識取得の問題ではなく、フレームワークづくりを心掛けてきました。得たものをより複雑になるよう育ててください。</p>
地域文化形成論	須賀 由紀子	<p>あらたなまちづくり・創造都市について興味を持っていただけてよかったです。地域の文化の活かし方、深め方について、構造的に理解をすること、さらには、理解をするだけでなく、身近なところで小さなことでも実践に結び付けていただけるとよいなと思います。</p>

[2022 (後期) 現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
統計とモデリング	上野 亮	<p>本授業の満足度は4.0を超えていましたが、内容が難しいこともあり、学生たちの理解度は少し低めになってしまいました。本授業はExcelやRを使い、データ分析する手法を学修する授業です。そのため、ある程度、PCやExcelの扱いに慣れている学生が履修することを想定していました(シラバスの注意事項にもその旨を明記していました)。しかし、実際にはPCやExcelの基本的な操作に不慣れな学生も受講していたようでした。その結果、PCやExcel操作と統計的な考え方の両面からの理解を求められる場面が生じてしまったのに加え、そもそも統計という授業のテーマ自体が難しいこともあり、結果として、学生たちの理解度が少し低めになったのかなと考えております。一方、予習復習時間は当該科目平均0.88hと少し少なめでした。統計の授業であり、内容が難しいことは、授業でも伝えていたため、もう少し予習復習(特に復習)時間は確保してもらえれば良かったと思います。なお、学生からの成長を実感したことの回答には「統計について少し詳しくなった」「エクセルの統計の使い方の知識が深まった」といった回答もありました。そのため、授業の到達目標に関しては、ある程度は達成できたと思います。</p> <p>次年度の授業に関しては、少し内容を取捨選択して、重要な部分を丁寧に説明する(翌授業で振り返りの時間を確保する)のに対し、あまり利用機会が無い内容は、少し簡単に説明する等、絶対理解して欲しい点とそうでない点のメリハリをつけて、限られた時間を有効活用できるよう工夫をしたいと考えております。</p>